

2008/05/13

トヨタ、自動車リサイクル法に基づく2007年度再資源化等の実績を公表

トヨタ自動車(株)(以下、トヨタ)は、自動車リサイクル法^{*1}に基づく、ASR^{*2}・エアバッグ類・フロン類の特定3物品の2007年度(2007年4月～2008年3月)再資源化等の実績を公表した。

自動車リサイクル法において、自動車メーカー等は特定3物品の引き取り・リサイクル・適正処理の義務を担っている。トヨタは、ASRについては豊通リサイクル(株)に、エアバッグ類およびフロン類については業界共同で設立した中間法人 自動車再資源化協力機構に業務委託し、全国における特定3物品の引き取り・リサイクル・処理を適正かつ効率的に行っている。

その結果、トヨタの2007年度再資源化等実績は、ASRの引き取りが96万台、重量にして20万トンで、うち15万トンを再資源化した。ASR再資源化率は通年で約76%となり、2015年度法定基準70%を8年前倒しにて達成する結果となった。(2005年度57% 2006年度66%)これは、2005年の法施行よりASRリサイクル施設等の操業安定性などを最優先に考え、毎年利用するリサイクル施設を慎重に検討したうえで、着実にASR再資源化率を向上させた結果実現した。

(車両のリサイクル実効率^{*3}に換算すると約96%に相当)

さらに、エアバッグ類の引き取りは25万台(62万個)で、回収での再資源化率は94%と、法定基準85%を上回る水準を確保した。フロン類についても適正に破壊処理を行った。

(各実績の詳細については別紙1参照)

なお、トヨタが特定3物品の再資源化等に要した費用総額は、社内のシステム関連費、専任人件費を含めて87.7億円となり、資金管理法人から払い渡しを受けたお客様からの預託金総額84.3億円を3.4億円上回る見込み。(詳細実績値は5月16日以降トヨタホームページにて公表予定)

トヨタでは、リサイクルしやすいクルマづくりの観点から2001年豊田メタル(株)内にリサイクル研究所を設置し、解体方法の研究から車両設計へのフィードバックまで多彩な研究を実施してきた。また、1998年には同社内に世界初となるASRのリサイクルプラントを設置、本年で操業10周年を迎える。同プラントでは、ASRから車両用リサイクル防音材等へのCar to Carリサイクルを実用化し、2007年度までにリサイクル防音材の車両への搭載台数は累計1,400万台に達したほか、マテリアルリサイクル主体^{*4}のASRリサイクル施設としては高いレベルのASR再資源化率74%を達成するなど、自動車メーカー自らより高度なASRリサイクルを10年間にわたり実践してきた。

(ASRリサイクルプラントの歩みについては別紙2参照)

トヨタは今後も、リサイクル実効率95%以上を確実に維持するとともに、より高度なCar to Carリサイクルの実現に向けさらなる努力をしていく方針である。

* 1. 正式名称は「使用済自動車の再資源化等に関する法律」

* 2. ASR: Automobile Shredder Residue (自動車シュレッダーダスト)

* 3. 解体・シュレッダー工程までで再資源化される比率約83%(03/5合同審議会資料より引用)に、残りのASR比率17%とASRリサイクル率 約76%を乗算したものを合算して算出

* 4. 車両防音材用フェルト地等の代替材料の他、電炉メーカー等の製鋼過程で使用される加炭材の代替材料として活用

以上

自動車リサイクル法に基づく2007年度 再資源化等の実績

1. 対象期間 2007年4月1日 ～ 2008年3月31日

2. 再資源化等の状況

項 目		2007年度 (2007/4～2008/3)	<参考>2006年度 (2006/4～2007/3)		
ASR ※1	引取台数	引取使用済自動車台数	858,506台	828,267台	
		委託全部利用引渡解体自動車台数	102,234台	128,234台	
		合計	960,740台	956,501台	
	引取量	引取ASR重量	178,764t	168,664t	
		委託全部利用引渡ASR相当重量	20,495t	25,333t	
		合計【A】	199,259t	193,997t	
	再資源化 重量	再資源化施設再資源化重量(①-②) ※2	131,124t	103,415t	
		①施設投入重量	145,787t	119,485t	
		②施設排出残渣重量	14,663t	16,070t	
		委託全部利用再資源化重量(③-④)	20,279t	24,066t	
		③委託全部利用したASR相当重量	20,495t	25,333t	
	④排出残渣重量	216t	1,267t		
合計【B】 ※3	151,403t	127,481t			
エアバッグ類	引取台数	取外回収台数	76,473台	70,576台	
		車上作動台数	168,130台	114,543台	
		一部取外回収／一部車上作動台数	641台	526台	
		合計	245,244台	185,645台	
	引取量	取外回収個数 ※4	109,553個	100,865個	
		車上作動個数	508,966個	333,785個	
		合計	618,519個	434,650個	
	再資源化 重量	再資源化施設の引取重量【C】 ※5	72,572kg	65,049kg	
		再資源化重量【D】	68,207kg	61,197kg	
	フロン類	引取台数	CFC引取台数	215,555台	286,750台
			HFC引取台数	489,444台	425,830台
			合計	704,999台	712,580台
引取量		CFC引取重量	58,666kg	80,228kg	
		HFC引取重量	156,381kg	143,129kg	
		合計	215,047kg	223,357kg	

※1. ASR:Automobile Shredder Residue 自動車シュレッダーダスト

※2. ASR再資源化施設の基準適合状況は、下記の豊通リサイクル(株)のホームページを参照
<http://www.toyotsurecycle.co.jp/ASR/hikitori.html>

- ※3. ASR再資源化重量合計値が各項目合計と一致しないのは四捨五入によるもの
 ※4. エアバッグ類の取外回収個数は指定引取場所において引き取った個数
 ※5. 指定引取場所に引き取った後、再資源化施設で引き取ったエアバッグ類の重量

3. 基準の遵守状況

項目		基準	2007年度 (2007/4～2008/3)	<参考>2006年度 (2006/4～2007/3)
再資源化率	ASR ※上表の【B】／【A】	30%以上 (2005年度～2009年度)	76%	66%
		50%以上 (2010年度～2014年度)		
		70%以上 (2015年度～)		
エアバッグ類 ※上表の【D】／【C】		85%以上	94%	94%

4. 払い渡しを受けた預託金および再資源化等に要した費用

	2007年度(2007/4～2008/3)(単位:億円)			<参考>2006年度(2006/4～2007/3)(単位:円)		
	払い渡しを受けた預託金	再資源化等に要した費用	収支	払い渡しを受けた預託金	再資源化等に要した費用	収支
ASR	64.8	65.3	△ 0.5	6,263,650,936	6,311,093,506	△ 47,442,570
エアバッグ類	4.9	6.3	△ 1.4	363,636,211	485,917,099	△ 122,280,888
フロン類	14.6	16.1	△ 1.5	1,464,558,520	1,637,057,179	△ 172,498,659
合計	84.3	87.7	△ 3.4	8,091,845,667	8,434,067,784	△ 342,222,117

注) 詳細な収支金額(実績値)については5月16日以降トヨタホームページにて公表予定

再資源化等の実績の修正について

上記の2007年度再資源化等の実績は、公表日時点(2008年5月13日)のもので、公表後、一部の再資源化委託施設の実績修正が行われたため、下記項目の数値を修正いたしました。(2008年6月25日)

(修正項目)	(誤)	(正)
[2007年度]		
ASR再資源化施設再資源化重量	131,124t	→ 131,130t
ASR施設排出残渣重量	14,663t	→ 14,657t
ASR再資源化重量合計	151,403t	→ 151,409t
エアバッグ類再資源化施設の引取重量	72,572kg	→ 73,650kg
エアバッグ類再資源化重量	68,207kg	→ 69,217kg
[2006年度]		
エアバッグ類再資源化施設の引取重量	65,049kg	→ 65,916kg
エアバッグ類再資源化重量	61,197kg	→ 62,010kg

豊田メタル(株) ASRリサイクルプラント10年の歩み

1998年 (平成10年)	<ul style="list-style-type: none"> 豊田メタル(株)内に世界初となる本格的ASRリサイクルプラント操業開始(8月) (能力15千台/月) 		ASRリサイクルプラント外観 (豊田メタル株式会社)
1999年 (平成11年)	<ul style="list-style-type: none"> ASRリサイクルプラント連続2直稼動開始(1月) ※ RSPPの適用車種拡大(12車種) ASRリサイクルプラント リサイクル推進功労者表彰 通産大臣賞受賞 		プラントシステムフロー概要
2000年 (平成12年)	<ul style="list-style-type: none"> 同 第35回機械振興協会賞受賞 		
2001年 (平成13年)	<ul style="list-style-type: none"> 同 中日産業技術賞経済産業大臣賞受賞 		
2002年 (平成14年)	<ul style="list-style-type: none"> RSPPの新車搭載500万台達成 RSPPを自動車用製造工場の屋根断熱材として利用開始 		RSPPの屋根断熱材利用
2003年 (平成15年)			
2004年 (平成16年)			
2005年 (平成17年)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車リサイクル法施行に伴いASR再資源化施設としてTH、ART両チームの基準適合施設として認定される。 分別樹脂類(固化物、助燃材)の電気炉(自動車特殊鋼用)原燃料利用開始 RSPPの新車搭載1000万台達成 		● RSPP使用例 ダッシュ サイレンサー RSPP
2006年 (平成18年)	<ul style="list-style-type: none"> 未利用樹脂開発の湿式分別実証試験開始 		
2007年 (平成19年)	<ul style="list-style-type: none"> RSPPの新車搭載1400万台達成 ASRリサイクル率74%達成 (2015年自動車リサイクル法目標70%をマテリアルリサイクル施設で達成) ASRリサイクルプラント 操業10周年を迎える。 ('07年度末:累計取扱量:187千トン、約100万台の廃車に相当) 		

※ RSPP: Recycled Sound-Proofing Products(リサイクル防音材)